

差がひじょうに大きい。

きれいな $\begin{cases} \text{㉞} & \text{ちよがみで} \\ \text{㉟} & \text{ツルを} \\ \text{㊱} & \text{おりました。} \end{cases}$

もっとも多いのは ㉟の形である。

1. 2の文の修飾語はいずれも連用修飾語で、述語を修飾している形をとっているから、割合に理解し易いが、3の「きれいな」は連体修飾語になる。ちよがみも、ツルも両者が体言なので、少々複雑さがある。

きれいなちよがみで — ツルをおりました。
という形を理解しなければならない。きれいなということばが、きれいになるとまた別である。

指導のときには文法的な用語は問題にしないが、このかかりうけを理解させるということは、文の骨組みを確かにおさえることになり、内容の複雑な文の中心語句を発見する手がかりともなる。

(4) ㉟ 書く(文字)

問題	正答率
1	74.9
2	62.6
3	65.9
4	23.2
5	65.4
6	49.2
7	47.5
8	69.3
9	89.0
10	49.6

10問中、正答率が極端に低いのは「旅」である。無答と、それに準ずるものを含めると、被検者の約50%になり、正答率を大きくうまることになる。「旅」という字は、光村版教科書では、三年下の中に「旅行」という語で、東書版教科書では、三年上に提示されている教材の中で、「旅行先」という語で

注 ○印は配当漢字 しめされていることを
△印は線下げ漢字 考えれば、23%という正答率はあまりにも低すぎはしないだろうか。字形がとらえにくく、書体としてもこどもにとっては書きにくいということが原因になっているとも考えられる。

最初の概観のところであふれておいたが、三年生になると急に漢字の数がましてくるので、個人差が生じてくることは予想されることである。漢字

書写力を定着させるための指導はどうあるべきかを、あらためて検討して見るが必要であろう。

問題	文字の一部想起再生	類字	あて字	点画の過剰	点画不足
弟止旅	弟衣	第族遊放	取		弟
美野原原回		理		原原	美
寒			会貝海		寒
曜					寒曜

想起不完全なものとしては、

- 旅—依 ○美—夫 ○野—裡 ○原—原
- 話—話

問題二

同音、同訓の漢字の書写力の問題

1. ともだちと ㊱う。	34.7
2. ようふくが ぴったり ㊱う。	42.3

漢字そのものは二年の配当であるので、むずかしいものではないが、用法にあやまりが見られる。字義が確実でないということが原因ではなからうか。

ともだちと合うとしたものが約40%で、正答率をうわまわる。

1. 紙を ㊱る。	57.8
2. きものを ㊱る。	27.2